

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3672100559		
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム サニーワン(ふらわーはうす)		
所在地	和歌山県日高郡日高町大字初湯川213-1		
自己評価作成日	平成31年1月4日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3072100559-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりを大切に、施設近くで毎年行われる伝統ある神社の祭りや小学校の運動会、地域のフォレスト祭に参加しています。また地域の小中学校や保育園児に訪れて頂き入居者の方々と楽しく交流されています。季節の行事として庭園での桜の花見、花植え、紅葉ドライブ等行なっています。また七夕飾り、焼き芋、しめ縄作り、干し柿作りはサークルやレクリエーション等で行なっています。笹や藁は地域の方々にご協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は空気が澄んで静かな山間に建てられている。5年前の災害を教訓を活かし、昨年の台風では自家発電、備蓄等を効率的に使用できた。100歳を迎える入居者のリクエストに応え白浜アドベンチャーワールドで家族と過ごす時間を設定したり、入居してから八朔作業に関わりたい入居者に対しては「八朔の選定を行う」という計画目標を立ててその人らしい生活の実現に向けた取組みがなされている。職員も長期勤務者が多くなり、理念も職員に浸透している。接遇研修では職員が入居者になりきり、ミキサー食を介助してもらったり、トイレも自由に行けない状態を想定し、入居者の立場を理解し実践につなげるような取組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として、入居者、家族様の考えを最優先しプランを提供しています。楽しみの多い暮らしが出来るように職員と共有し実践に努めています。	ユニット毎の理念はなく、グループホーム全体としての理念がある。以前は唱和する機会を設けていたが、長期勤務者も多く、職員が常に行き来し目に付く一階事務所に掲示することで、理念の周知・共有につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や地域の祭りに参加しています。また近くの喫茶店、商店に買い物に行き地域の方々と交流をしています。	すぐ近くの神社で行われる春祭りを見学したり小学生の運動会を楽しんだりしている。天候や体調が良ければ、近所の商店に買物に出かけたりしている。自治会活動への参加は少なくなったが、継続はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の慰問やイベント。サークル活動に参加して頂き認知症に対する理解の場としています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催しており行事や施設の現況報告をしています。また会議で行政、地域の方と話し合った内容をサービスの向上に取り入れています。	運営推進会議では役場の職員や民生委員、老人会の方が出席し意見を出したり、事業所の方向性を説明するなどし、事業所の運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険等のホーム運営に関する質問や相談をしながら協力関係を築いています。	生活に困る方などの入居相談のほか、状況に合わせた役場職員との相談をその都度行い、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を月に一度行なっています。研修に参加し理解できるよう取り組んでいます。各ユニット玄関の開錠は時間を決め実施しましたが、行事、人員等で実施できない日もありました。	年2回以上は内部・外部を組み合わせ、研修を行っている。玄関は施錠せず自由に入出りできるようにしているが、山間に事業所があり、行方を見失うと捜索も困難で生命に関わるため、職員配置状況に合わせて一時的に施錠を行い安全確保に務めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議を月一度行なっている。また、研修に参加したり勉強会などで防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用される入居者様がおられ相談援助支援を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者様、家族様に十分な説明とご理解を頂き規約、解約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日々の会話の中で探り、家族様には、面会時やサービス担当者会議、電話にて情報交換と意見を伺っています。意見箱を設置したりアンケートにより要望があれば沿うように努力しています。行政の相談窓口に関する情報を提供しています。	面会される家族が多く、その都度意見を聞くようにし、また玄関に意見箱を設置し外部の意見を受け入れるようにしている。入居者の意向は日々のケアの中で聞き、行事等で反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を月に一度行い、管理者は職員から意見を聞き運営に反映しています。	管理者は半年に一度職員面接を行い、ユニット会議でも現場職員の意見に耳を傾けている。勤務時間や回数を職員の希望に合わせて変更するような取組みも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により評価を行い、面接において個人の目標や希望を聞き取り、意欲的に取り組める環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や、実践研修等への外部研修に参加しています。研修内容は全体会で発表し意見交換の場を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修のグループワーク等で他の事業所の職員との交流があり相互の取組みなどの意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報・入居時・サービス担当者会議にて、不安や要望を聞き取りサービスを提供するなかで本人に確認しながら良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様から傾聴しサービス担当者会議や面会時にその都度確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議において支援の方向性を見極め対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立作りや調理・買い物・など本人の暮らしを共に過ごす物として信頼頂ける関係を築くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	センター方式を活用したり施設内のイベント等にお誘いして家族様も一緒に参加できる機会を設けたりと共に支えていく関係作りに努めています。また外出、外泊が円滑にできるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と外出したり、お盆やお正月の一時帰宅などでできています。イベント等で馴染みの方との交流もあります。	地元の祭りへの参加は楽しみの1つになっている。車椅子使用等の関係で馴染みの理美容院に出かけられる入居者は減ってしまっているが、場所によっては職員が送り出し、現地で家族と待ち合わせて馴染みの場所への行き来を継続するように支援している。家族の協力を得て外泊する入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のテーブルの位置を考慮したり、職員が間に入ることで良い関係作りができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様に状態を確認し相談に応じ対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で思いや希望を聞き取り把握に努めています。困難な場合は本人の過去の情報を家族様に聞くようにしています。	100歳の誕生日に本人の希望で白浜アドベンチャーワールドに出かける支援を行った。食事に関しては入居者の意向を聞き献立に組み込み、郷土料理のリクエストには他入居者も関心が高く、一緒に調理も行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に「本人や家族様から聞き取りをしています。その後も生活の会話等により把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活する事で、心身状態の変化に気付けるよう努めできること、できないことを把握しケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で担当職員や家族様、ユニット会議での意見を取り入れながらまた、本人の意向を確認しながら介護計画を作成しています。	自宅では引きこもりがちだったが、入居後には外出意欲も出てきてサークル活動に参加する支援も行えたケースがあつた。八朔の選別が気になるので、時期になれば選別作業に加わることを計画に位置付けるなど、個々の意向を反映する介護計画が検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容をケースに残し、職員で共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様による受診が困難な場合やニーズに応じて対応できるように柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や病院との連携を取り、地域資源を活用しボランティアやサークル活動に参加することで楽しみを持った生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望により引き続きこれまでのかかりつけ医の受診や施設主治医の定期的な在宅診療で対応し、適切な医療を受けられるように支援しています。	在宅時のかかりつけ医を継続することもできるし、協力医療機関からの往診も受けられる。また別の医師の往診も受けられるような体制もある。義歯調整で往診を受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する施設の看護師と連携をとり、申し送り等で日常の情報や気づきを伝え相談しています。また看護師を24時間の連絡体制や健康管理をし、必要時には主治医や協力医療機関、との連絡調整をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と契約を交わしており、家族様や病院と連絡を取り合い協働しています。また、地域連携室に定期的に訪問したり、関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などは、対応について職員と家族様の話し合いの機会を設け検討しています。主治医に相談し支援の方針を共有できるように努めています。	入居契約時及び状態悪化時に利用継続するか入院等を選択するかを家族に説明している。近隣に直ぐに駆けつけてもらえる医療機関はなく、病院まで1時間程度はかかる山間に事業所があるので、看取りは現状難しい状況でもある。看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習や看護師による勉強会、内部研修を行い応急手当や初期対応等できるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難訓練により全職員が身につけるように努めています。地域とは消防、防災対策相互協力協定を交わしています。災害対策については運営推進会議で話し合っています。備蓄の確保も行っています。	5年前の災害を教訓に昨年の台風では自家発電や非常食を活用し、入居者に大きな被害なく済んだ。避難訓練は昼夜に分けて合計で年4回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声のトーンに注意し、人格を尊重した声かけで対応しています。	入居者を呼ぶ時は苗字に「さん」を付けて、同姓の場合はフルネームや下の名前と呼ぶようにしている。共有スペースには個別ファイルはなく、また、トイレには個人所有の紙オムツは置かれていないなどプライバシーの配慮がなされている。	
37		○理の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で思いや希望を聞き取り、同意を得ながら自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、可能な限り希望に添える支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、散髪の出張サービスで支援しています。入浴前に職員と一緒に服を選んだり、ご自分で選んで頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に献立を考え食事作り、片付けを行なえる支援をしています。買い出しや外食などの企画もしています。	婦人会から寄贈されたランチョンマットを敷き、そこに小皿が複数並べられ、マイコップでお茶を飲み、家族の団らんを楽しめる工夫がある。食事用エプロンは使用せず、介護色を感じさせない雰囲気がある。きゅうりを切ったり、ポテトサラダを盛り付ける取組みもやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録し、栄養バランスを考慮した献立の支援をしています。一人ひとりの状態に応じた食事が提供できるように努めています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや見守りの支援を行っています。また、ご自分で出来ない方は介助にて行っています。週2回の義歯洗浄や口腔ケア委員と口腔状態の把握をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテに記録を取り一人ひとりの排泄パターンの把握に努めています。自立困難な方で希望に沿い二人対応でトイレの排泄ができるように支援を行っています。	排泄パターンを把握しつつ生活上の仕草でトイレ誘導を行っている。紙オムツの使用者は居室でオムツ交換するようにしている。「トイレ」という言葉を直接使用せず、誘導は小さな声とし周囲に気づかれないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、植物繊維を摂れる献立を考え、排泄記録を取り看護師に相談をし、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は、難しいができるだけ本人の希望に応じた入浴の支援ができるように努めています。	週3回の入浴を基本とし、入居者の希望や皮膚の状況に合わせて、回数は増減している。菖蒲湯や柚子風呂など季節感を感じられる工夫も行われている。入浴が行えない場合は時間帯を遅らせたり、清拭にする等で清潔保持を行っている。設備としてリフトが準備され、寝たままの方が安全であれば併設施設で入浴する対応も行える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにその時々声かけを行い、希望に応じた入浴の支援ができるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ADLやカルテにて把握に努めています。服薬忘れや誤薬のないように職員二人にて確認を行っています。薬の変更があれば主治医や看護師に確認しています。入居者様の状態把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味やサークル活動で役割と楽しみを持った生活や施設のイベントに参加する事で気分転換できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、園内の散歩や地域の行事に参加できるよう支援しています。ユニット全員で紅葉見物の外出支援ができました。	一週間分の献立を決めて入居者と一緒に週一回程度買物に行ったり、天候や体調に合わせて散歩したり、近所の神社に参拝したりしている。山間なので外出は難しいが、入居者の意向を聞き、身体機能も含め近所の色々な場所に行き、楽しめる工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはお金の所持をして頂き、買い物等にて使えるよう支援しています。また、所持されていない方には買い物時に支払って頂くよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や希望により本人が電話できるよう支援しています。自ら伝えることができない場合などには、職員が毎月手紙を家族様に送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の季節の花などが観賞でき、共用スペースは温湿度管理をし快適に過ごせるような工夫をしています。食事の献立にも季節感が感じるよう考慮しています。	集団で過ごすリビングは適度な遮光で温度・湿度計が置かれ、寒くなく暑くならないように配慮されている。静かな空間であり、1ユニットでは懐メロが常に流れて昔を振り返ることができる。居室やトイレへの動線もわかり易くなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、テーブルを丸く囲んだり、一人ひとり過ごしやすい居場所を持って生活できるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が、それまで使っていた家具などを準備して頂き、配置などにも本人の好みに配慮しています。	家族写真や入居者自身の作品が居室に飾られている。カーテンやエアコン、ベッドは事業所で準備され、自宅で使用していたタンスやテレビ等が持ち込まれている。畳での就寝や床に畳を敷きたい入居者の意向に合わせ居室のレイアウトも自由に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた生活に考慮し、必要なヶ所は保護し安全で自立した生活が送れるよう支援しています。		